

医学教育分野別評価 国際医療福祉大学医学部

年次報告書

2025 年度

評価受審年度： 2023（令和 5）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版： Ver. 2.34

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版： Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2023 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2024 年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36 を踏まえ、2025 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日を対象としている。

領域1

改善した項目：1

1. 使命と学修成果	1.1 使命
基本的水準 判定:部分的適合	
改善のための助言	
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関係を含め、医学部の使命を関係者にわかりやすく示すべきである。	
改善状況	
本学医学部の「使命」について、「ディプロマ・ポリシー」「コンピテンシー」との関連を明確化することが検討されている。医学部開設の使命・伝統的理念に基づき、急速に進歩する医学・医療の中で、変化する社会の要請に対応し、定期的に見直すことが予定されている。その策定には、広い範囲の教育の関係者(看護師、初等教育関係者、模擬患者、など)が参画し、医学部使命策定委員会の設置も含め検討している。	
今後の計画	
医学部使命策定委員会の発足を検討し、学生と教員で構成される委員会で議論し、使命の改訂の検討を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-1 医学部3つのポリシー(国際医療福祉大学ホームページ) 資料 11-2 2023・2024 年度医学部カリキュラム委員会議事録 資料 11-3 2023・2024 年度医学教育プログラム評価委員会議事録	

改善した項目：2

1. 使命と学修成果	1.1 使命
基本的水準 判定:部分的適合	
改善のための助言	
医師を養成するための目的と教育指針の概略を医学部の使命のなかに具体的に示し、目指すべき医師像を明確にすべきである。	
改善状況	
「使命」「ディプロマ・ポリシー」「コンピテンシー」について、医学部開設の使命・伝統的理念に基づき、急速に進歩する医学・医療の中で、変化する社会の要請に対応し、定期的に見直すことが予定されている。使命のなかに医師養成の目的と教育方針の概略を具体的に示し、目指すべき医師像を明確にする表現に修正する予定である。	
今後の計画	
医学部使命策定委員会の発足を検討し、学生と教員で構成される委員会で議論し、使命の改訂の検討を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-1 医学部3つのポリシー(国際医療福祉大学ホームページ) 資料 11-2 2023・2024 年度医学部カリキュラム委員会議事録 資料 11-3 2023・2024 年度医学教育プログラム評価委員会議事録	

改善した項目：3

1. 使命と学修成果	1.1 使命
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
医学部の使命に医学研究の達成をより明確に示すことが望まれる。	
改善状況	
医学部の使命のなかに、医学研究に関する内容をより明確に示すべく内容を修正する予定である。	
今後の計画	
使命の改訂の議論には学生も参加し、医学部使命策定委員会などで改訂案を作成する。改訂案については、医学部教育プログラム評価委員会で模擬患者や地域住民など多数の外部委員からの意見を反映させ、最終的に医学部調整会議、医学部運営会議、東京本部などで審議する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-3 2023・2024 年度医学教育プログラム評価委員会議事録	

改善した項目：4

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
保健医療機関での将来的役割、医学部設置の際に議論されていた地域医療についての学修成果をより明確に示すべきである。	
改善状況	
現在、学生と教員で構成される医学部カリキュラム委員会で地域医療に関するカリキュラムを検討している。	
今後の計画	
地域医療の実践例や成功事例を取り入れ、学生の地域医療への関与を促進するプログラムを導入し、カリキュラムを改善する。さらに保健医療機関での将来的役割について、医学部設置の際に議論された地域医療に関する学修成果をより明確に示せるよう取り組む。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：5

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生の適切な行動について、行動規範等に明記すべきである。	
改善状況	
これまでも学生の適切な行動についての行動規範等が学生便覧に記載していたが、分かりやすく明記する。また、学生の行動規範等は臨床実習の手引きにも記載している。	

今後の計画
学生の行動規範について、適宜見直し、学生便覧や実習の手引きを改訂する。
改善状況を示す根拠資料
資料 13-1 2024 年度医学部学生便覧 資料 13-2 2024 年度臨床実習 学修の手引き

改善した項目：6

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
医学研究に関する学修成果をよりわかりやすく示すことが望まれる。	
改善状況	
現在、本学のディプロマ・ポリシー3 では、医学研究に関する学修成果について「広い教養と寛容な精神を兼ね備えた上で、医学・医療に必要なサイエンスとアートを習得し、化学的思考力を基に、質の高い医療を実践できる」と明記されており、学生は、以下の医学研究の実践を行なっている。医学部学生の研究や課外活動の充実を推進し、医学部学生研究等課外活動として希望者には研究室への配属を行っている。また、延べ 187 名の学生を受け入れ可能な体制を整えている(研究課題数は 23 件)。主な活動として、ゼミや論文抄読会に加え、データ収集・解析を中心としたドライ研究や、ベンチサイドでの実験を主体とするウェット研究などを実施している。さらに、学生の医学研究に関する学修成果を収集し、ホームページ上で公開している。	
今後の計画	
医学研究およびリサーチ配属に関する科目設置を検討している。科目が設置された場合、本学のディプロマポリシー・コンピテンシーに基づき、「到達目標」を規定する予定である。また実際の学修成果を明示するため、研究の進捗状況や成果を定期的に報告し、学生や教員が容易にアクセスできるようにする。また、学修成果の発表の場として、学内外で開催される研究発表会やシンポジウムにおいて、学生が自分の研究成果を発表する機会を提供する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 13-3 医学部学生研究活動リスト 2024 年度 資料 13-4 第 14 回国際医療福祉大学学会学術大会(2024)タイムスケジュール	

改善した項目：7

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
今後、使命と学修成果の見直しを行う際には、その組織を規定して学生を含む主要な構成者が参画すべきである。	
改善状況	
医学部の使命については、医学部使命策定委員会の設置を検討している。 この委員会には、学生や一般市民を含む構成を検討している。	

学修成果を規定するディプロマ・ポリシーおよびコンピテンシーの見直しを行う場合については、医学部カリキュラム委員会が担当し、医学部教育プログラム委員会に審議・評価してもらう体制を検討している。これらの委員会には学生、一般市民が参加予定である。
今後の計画
上記の通り、各委員会の設置及び役割を検討する。
改善状況を示す根拠資料
資料なし

改善した項目：8

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
他の医療職や患者代表など広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取して、使命と学修成果に反映させることが望まれる。	
改善状況	
医学部教育プログラム評価委員会では、開学時カリキュラム及び7期生以降のカリキュラム(Step 1カリキュラム)について、多様な意見を収集するために、医療職、模擬患者、教育関係者などが参画しており、さまざまなステークホルダーからの意見を定期的に収集している。	
今後の計画	
多様な意見を収集し、医学部カリキュラム委員会で整理したうえで、医療職、模擬患者、教育関係者などが参画する医学部教育プログラム評価委員会において、その妥当性を検討する。年に数回、意見交換の場を設け、直接対話を通じて多様な視点を取り入れることで、収集した意見を使命や学修成果にどのように反映させるかを明確にし、関係者と情報を共有する。さらに、幅広い関係者からの意見が使命や学修成果に適切に反映されているかを確認し、必要に応じてフィードバックを行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-3 2023・2024 年度医学教育プログラム評価委員会議事録	

領域 2

改善した項目：9

2. 教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
カリキュラムを通してアクティブラーニングをさらに充実すべきである。	
改善状況	
2025 年度 4 月より、本学では英語の学習補助教材として Elsevier 社の Osmosis (TM)を導入し、反転授業にもこれまで以上に対応できるように行っている。2-3 年生の器官別統合科目にて Osmosis の活用を始めた。4 年生の合同カンファレンスに Osmosis を用いて、自己調整学習をする機会を導入した。 2025 年度は医療体験実習を 3 年生にも導入し、アクティブラーニングを促進している。	
今後の計画	
教員及び学生の間で、Osmosis (TM)の活用をさらに推進し、自己調整学習 (self-directed learning)のスキルを養成していくことを検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 21-1 Osmosis (TM) 導入の会議録(医学教育統括センター会議議事録)	

改善した項目：10

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
必修科目として学生全員が医学研究に参加できるカリキュラムを提供すべきである。	
改善状況	
開学以来、課外活動としての研究活動は活発に実施しており、さらに充実していく方向で検討している。また本学で 2025 年度に導入した特別選抜制度により、成績優秀かつ模範的な学生につき、講義形式の授業への出席を免除し、授業ビデオ受講による自主学習に移行した。その時間に研究や学会活動に十分に参加できる時間を確保している。	
今後の計画	
Step 2 カリキュラム改編などで全員にリサーチ配属ができるように準備を検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 22-1 2025 年度特別選抜学修プログラムについて 資料 22-2 2025 年度特別選抜学修プログラム学生リスト	

改善した項目：11

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習での EBM 実践をより充実させるべきである。	

改善状況
臨床実習の充実をさらに図るため、診療参加型臨床実習の充実やローテーションする診療科の週数などについて見直しを始めている。その中で、EBM 実践を確実に実施するように検討を始めている。
今後の計画
臨床実習において、Post-CC OSCE を想定し、医療面接、身体診察、臨床推論、エビデンスに基づいた臨床意思決定 について、症例ベースでの教育を検討していく。
改善状況を示す根拠資料
資料なし

改善した項目：12

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
基本的水準 判定:適合	
改善のための助言	
学生が学修しやすいように、カリキュラムにおいて基礎医学のあり方をさらに検討すべきである。	
改善状況	
2023 年度入学生から Step 1 カリキュラム改編が実施された。科目のコマ数は同じであるが、実施する期間が延長され、より学びやすい状況を作っている。 さらに、時間割の組み方の工夫や、本学で計画している Step 2 カリキュラム改編で、基礎医学での学習時間を十分に確保できるように検討を始めている。	
今後の計画	
同上	
改善状況を示す根拠資料	
資料 23-1 2023 年度医学部時間割 資料 23-2 STEP2 カリキュラム案(医学部科目対照表)	

改善した項目：13

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定:部分的適合	
改善のための助言	
行動科学教育を体系的に構築し、実践すべきである。	
改善状況	
現行のカリキュラムにおいても、行動科学は医療プロフェッショナリズムや、3 年次の「予防医学と行動科学」で教育は実施しているが、今後、さらに体系的な教育を準備している。 2024 年度以降、医学部カリキュラム委員会 Working Group にて今後、行動科学 I-VI を導入する準備を開始している。行動科学の専門教員を中心にシラバスなどの整備を進めている。	
今後の計画	
本学の Step 2 カリキュラム改編において行動科学 I-VI を導入する方向で検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 24-1 行動科学シラバス案	

改善した項目：14

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定:部分的適合	
改善のための助言	
主要な診療科では、1診療科あたり連続して4週間以上の診療参加型臨床実習を確保すべきである。	
改善状況	
本学の開学時カリキュラムにおいては、現状、4年次は4週間ずつ一部の診療科ではローテーションしているが、今後、主要な診療科でも全員が4週間ローテーションできるように改善することを準備している。Step 1 カリキュラム改編に基づき 2026 年度から新たに開始される臨床実習で、主要な診療科のローテーション変更を予定している。	
今後の計画	
同上	
改善状況を示す根拠資料	
資料 25-1 実習ローテ検討の会議録(医学教育統括センター会議議事録)	

改善した項目：15

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定:部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習で学生が経験した症例・症候を把握し、学生が計画的に患者と接することを確実に行うべきである。	
改善状況	
2025 年度に臨床実習に関し、管理体制が改変され、臨床実習管理委員会から臨床教育管理委員会に変更された。現在、学生が臨床実習で経験した文部科学省医学教育モデルコアカリキュラムの37症候について、Google form (TM)にて学生が提出する体制をとっている。2020-2024 年度までは、4年次の学生は毎週金曜日に全体セッションを行い、症例ベースでのディスカッションの機会を設けていた。2025 年度からは、文部科学省医学教育モデルコアカリキュラムの 37 症候に基づき、グループディスカッションを実施している。現在、Google Form で 37 症候で、経験した症例を提出している。また、1-6 学年を通し、学生評価の方法として、CC-EPOC の導入を準備しており導入完了後は、CC-EPOC を通し、学生の経験した症例・症候を把握することを検討している。	
今後の計画	
臨床教育管理委員会等で、学生の経験した症例、症候についてさらに改善できるかを検討していく。CC-EPOC を導入中であり、このシステム中に症候や症例を蓄積していくことを検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 25-2 臨床教育管理委員会議事録	

改善した項目：16

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習において、健康増進と予防医学の体験を確実に実施すべきである。	
改善状況	
臨床教育管理委員会で、臨床実習において健康増進と予防医学の体験を確実に実施できるように検討していく。5 年次は成田病院感染症科ローテーション中に予防接種について実習している。 臨床前教育で 2024 年度から 3 年次の社会医学 II のグループワークでがん検診全般について学修し、臨床実習での予防医学の実践の準備をしている。	
今後の計画	
臨床実習の一環で、成田キャンパスの健康管理センターや成田病院人間ドックなどで予防医療について体験することを検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：17

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
全学生が早期から患者と接する機会を十分に持ち、徐々に患者診療への参画を深めていくことが望まれる。	
改善状況	
2023 年度から実施の Step 1 カリキュラム改編では、1-3 年次に、「早期体験実習 I, II, III」の科目が導入された。医療体験実習として、医療現場での体験を実施している。（全学生が早期から患者と接する機会を十分に持ち、徐々に患者診療への参画を深めていくよう検討をしていく。	
今後の計画	
同上	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：18

2. 教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
基礎医学における水平的統合をさらに推進することが望まれる。	
改善状況	
本学で計画している Step 2 カリキュラム改編では、基礎臨床社会医学系の教育を統合する	

ため、現在、3-4 年次の科目である「症候と臨床推論」を 1-6 年次に導入することを想定し準備を開始している。この科目では、臨床現場における症例を用い、Problem-based learning (PBL)を通して、学生が、「患者のプロブレム」を論理的に思考できるスキルを養う。その前提となる解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、免疫学、微生物学、社会医学、保健衛生などを 症例を通して学べる体制の構築を準備している。
今後の計画
Step 2 カリキュラム改編において上記が実施できるように準備していく。
改善状況を示す根拠資料
資料 26-1 カリキュラム委員会 WG カリキュラム改編議事録

改善した項目：19

2. 教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定:適合	
改善のための示唆	
器官別統合講義による垂直的統合を一層推進することが望まれる。	
改善状況	
器官別統合講義では、各臓器別の科目の中に、解剖学・生理学は含まれているが学生の理解が統合され深まるように、Elsevier 社の Osmosis という学習補助ビデオ教材を導入した。学生はビデオ教材を用い、基礎医学の内容の復習や各臓器別の病態生理の予習や復習が可能となっている。 また、本学で計画している Step 2 カリキュラム改編では、基礎臨床社会医学系の教育を統合するため、現在、3-4 年次の科目である「症候と臨床推論」を 1-6 年次に導入することを想定し準備を開始している。この科目では、臨床現場における症例を用い、Problem-based learning (PBL)を通して、学生が、「患者のプロブレム」を論理的に思考できるスキルを養う。その前提となる解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、免疫学、微生物学、社会医学、保健衛生などを症例を通して学べる体制の構築を準備している。	
今後の計画	
器官別統合科目の中に、基礎医学・社会医学の内容を統合していくことを検討する。 また Step 2 カリキュラム改編において上記が実施できるように準備していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-2 2023・2024 年度医学部カリキュラム委員会議事録 資料 26-1 カリキュラム委員会 WG カリキュラム改編議事録	

改善した項目：20

2. 教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
質的向上のための水準 判定:部分的適合	
改善のための示唆	
教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。	
改善状況	

現在、医学部カリキュラム委員会が活動しているが、その委員会のうち、年に 1 回程度、「拡大カリキュラム委員会」として、地域の一般市民の代表として、本学の模擬患者の会の方や高校教員などの意見が反映できるように検討中である。
今後の計画
同上
改善状況を示す根拠資料
資料なし

改善した項目：21

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
卒業生が将来働く環境からの情報に基づいて教育プログラムを改良することが望まれる。	
改善状況	
2024 年度に 2023 年 3 月に卒業した本学 1 期生 124 名とその指導医向けにアンケート調査を実施した。その情報を基礎資料の 1 つとして今後、Step 2 カリキュラム改編の実施を予定している。	
今後の計画	
同上	
改善状況を示す根拠資料	
資料 28-1 1 期生 卒業生 IUHW カリキュラムに関するアンケート調査 2024 資料 28-2 1 期生 指導医 IUHW カリキュラムに関するアンケート調査 2024	

領域 3

改善した項目：22

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
低学年から臨床実習にかけて、Workplace-based assessment(WBA)を導入するなど、技能および態度について確実に評価すべきである。	
改善状況	
2024 年度に医学教育統括センターで臨床実習における評価について再検討した。その際に、評価方法として CC-EPOC を導入することが決定された。2025 年度はこれまでの既存の方法と CC-ECPOC が並行する形になる。	
今後の計画	
CC-EPOC の使い方などを教員に周知するための FD が必要である。CC-EPOC が周知され活用し始めた段階で、低学年の早期医療体験実習やその他の演習などでも CC-EPOC を活用した評価を本格的に導入することを検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 31-1 CC-EPOC 導入の会議録(医学教育統括センター会議議事録) 資料 31-2 CC-EPOC 導入の会議録(臨床実習管理委員会議事録)	

改善した項目：23

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
評価方法と結果に関する利益相反について、明文化し整備すべきである。	
改善状況	
現在、入学試験においては利益相反に関して規定がある。同様の規定を各科目の評価において親族などがいる場合に文書化することを検討している。	
今後の計画	
親族がいる場合の科目評価について文書化し学生便覧などに明記することを検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 31-3 医学部自己点検評価プログラム委員会 開催記録	

改善した項目：24

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
MCQ 形式の試験以外においても評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。	
改善状況	

文章やエッセイなどの記述試験においても 2023 年度に医学教育統括センターにおいて、 本学医学部共通の Rubric (評価基準)を策定している。
今後の計画
医学共通 Rubric (評価基準)について各科目責任者に周知するよう、専任代表者会議や医学部 FD 委員会で取り上げる。
改善状況を示す根拠資料
資料 31-4 医学部共通ルーブリック

改善した項目：25

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
目標とする学修成果と教育方法に整合した評価を行うべきである。	
改善状況	
各科目のシラバスには、本学のディプロマ・ポリシー4 項目で該当項目に印が入っており、関連するコンピテンシー21 個のうち該当項目にも印が入っている。さらに各科目の具体的な到達目標も記載されているため、これまで以上にこれらが関連し授業で実施されるよう促進することを検討している。	
今後の計画	
本学全体の評価(アセスメント)をマッピングし、どの科目がどのコンピテンシーをどのような方法(筆記試験、技能試験、態度評価)で実施されているのかを可視化することを検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 32-1 2024 年度シラバス一例	

改善した項目：26

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
目標とする学修成果を学生が達成していることを医学部として保証する評価を行うべきである。	
改善状況	
現在、本学のディプロマ・ポリシーの4 項目について、学生は、各学年の年度初めに自己評価として Likert Scale を用い自己評価を提出している。3 年次には外部試験である CBT と臨床前 OSCE で評価がある。 開学時カリキュラムでは、5年次に進級要件の総合試験、6 年次に卒業要件の総合試験を実施している。4 年次に総合試験は実施していなかったが、2023 年度は4 年次に総合試験をトライアルとして導入し実施した。2024 年度は、4 年次に総合試験を導入した。これは進級要件ではないため進級試験ではないが、学生の到達度を早期に確認し、支援が必要な学生を特定するための試験の導入となっている。	
今後の計画	

各科目で学修すべきコンピテンシーについて、学年相応のマイルストーンごとにその達成度を確認できる体制を検討していく。
改善状況を示す根拠資料
資料 13-2 2024 年度臨床実習 学修の手引き 資料 32-2 2023 年度 4 年次総合試験の実施について

改善した項目：27

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
低学年から臨床実習にかけて、形成的評価を充実させて学生の学修を促進すべきである。	
改善状況	
現在、臨床前教育では、7 名に 1-2 名の相談教員が配置されている。学年の初めに食事会などを開催し相談しやすいように配慮している。各科目の試験で不合格者は相談教員が面談し、対応を相談できる体制である。また成績不良の学生は学年主任や科目担当教員が面談し学修支援を行っている。一方、成績上位の学生についても、形成的評価が実施できるように今後、検討をしていく。 臨床実習では、各診療科のローテーション終了時に指導医と面談することになっているが、実施状況について現状把握と課題を検討していく。	
今後の計画	
学生全員に対して定期的かつ体系的な形成的評価やフィードバックが構築できるかを検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：28

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
試験の回数と方法についてさらに検討することが望まれる。	
改善状況	
現在、医学部カリキュラム委員会で、カリキュラム改編 Step 2 が検討されており、1 年次、2 年次、3 年次にも総合試験を導入するかを検討していく。また基礎医学や器官別統合科目の各科目において中間試験及び総合試験の実施について検討している。	
今後の計画	
学生が表面的な暗記のみで対応するのではなく、深い学修が必要となる評価体制について引き続き検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：29

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。	
改善状況	
2023 年度から定期試験の結果については、eLearning を用い、学生が自分の得点を見れる体制が実施されている。学生全員に対して、時機を得た、具体的、建設的、かつ公正なフィードバックを形成的評価として積極的に実施する体制を検討していく。	
今後の計画	
上記と同じ。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

領域 4

改善した項目：30

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
アドミッション・ポリシー（入学方針）を定期的に見直すことが望まれる。	
改善状況	
医学部運営会議でアドミッション・ポリシー（入学方針）について定期的に見直しすることを検討している。教授会に相当する医学部専任代表者会議にて、アドミッション・ポリシー（入学方針）の現状について意見を募ることを計画している。	
今後の計画	
上記を実施することを検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：31

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
入学決定に対する疑義申し立て制度を実働することが望まれる。	
改善状況	
2024 年度入学者選抜から、入試成績開示に加えて疑義申し立て申請の受付についてもホームページ上で案内をしているが、 現段階ではまだ実際の疑義申し立て申請はない。例年多くの申請がある入試成績開示制度の案内と並立する形で情報を掲載しており、受験生に対して問題なく情報を提供できていると考えられる。	
今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	
資料 41-1 成績開示・疑義申し立て申請について（ホームページ） 資料 41-2 入学試験成績開示_医学部件数 2023 年度～2025 年度	

改善した項目：32

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
キャリアガイダンスをさらに充実させることが望まれる。	
改善状況	
以前よりあったキャリアデザイン委員会をさらに充実させた。具体的には、委員会を年に 4 回開催した。また、委員会主催のロールモデルやキャリアに関するイベントも年に 4 回開催	

した。
今後の計画
今後さらに充実させる予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料 43-1 2024 年度キャリアデザイン委員会名簿 資料 43-2 2024 年度キャリアデザイン委員会議事録 資料 43-3 2024 年キャリアデザイン委員会主催のイベント概要

改善した項目：33

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
使命を策定する委員会に学生が参加することを規定し、実践すべきである。	
改善状況	
現在、学生と教員、一般市民等も含む医学部使命策定委員会の設置を検討している。また、模擬患者や地域住民など多数の外部委員を含む医学教育プログラム評価委員会に学生も参加し、その改訂案の妥当性を検討する体制を検討している。	
今後の計画	
医学部使命策定委員会の発足を検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

領域 5

改善した項目：34

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
採用した全教員の活動を確実にモニタすべきである。	
改善状況	
医学部教員については定期的に(年2回)活動報告を取りまとめており、所属長である医学部長が評価を行い、大学人事制度委員会に報告をしている。	
今後の計画	
全教員の教育・研究・診療に関するエフォート管理についての統一した考え方、在り方につき検討を進める。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 51-1 2024 年度教育研究活動報告書	

改善した項目：35

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
すべての教員について、教育、研究、診療の活動をモニタすべきである。	
改善状況	
病院での勤務が主で医学部に併任する教員についても確実に教育、研究、診療の活動をモニタリングするように現在昨年度の報告書のとりまとめを行っている。各診療科の代表教授の教育、研究、診療に関する調査を2024年秋に実施し、学長・医学部長等による面接を実施した。教育、研究、診療のバランスやエフォート率についての自己申告に基づき現在教員の評価を行っているが、エフォート管理についての統一した考え方、在り方につき更に検討を進めている。	
今後の計画	
すべての教員について統一した基準でのエフォート管理体制を構築する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 51-1 2024 年度教育研究活動報告書	

改善した項目：36

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解するために、新任教員 FD を含め系統的な教育 FD を充実させて、参加者を増やすべきである。	
改善状況	

新規採用教員向け教育内容等のオリエンテーションビデオセットの作成及び、教育 FD の充実に向けた取り組みを開始した。
今後の計画
新任教員を含む全教員の教育 FD の継続的な充実、参加者の増加を目指す。
改善状況を示す根拠資料
資料 52-2 2024 年度医学部 FD 委員会議事録
資料 52-3 2024 年度医学部教育 FD 実績

領域 6

改善した項目：37

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生が適切な臨床経験を積めるように、各学生が担当した患者数と症候・疾患分類を把握して臨床実習施設を整備すべきである。	
改善状況	
臨床教育管理委員会等で、学生の経験した症例、症候についてさらに改善できるかを検討していく。現在、CC-EPOC を導入中であり、このシステム中に症候や症例を蓄積していくことを検討している。これにより学生が経験した症状、疾患、手技等を記録し、教員、医師、患者、看護師等が研修の達成度を評価することができる体制を検討中である。	
今後の計画	
CC-EPOC 導入後は、これを用いて学生が適切かつバランスの取れた臨床経験を積むことができるよう活用支援を積極的に行っていく予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：38

6. 教育資源	6.4 医学研究と学識
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
すべての学生が一定期間集中して研究活動に携わることを奨励することが望まれる。	
改善状況	
2025 年度より「特別選抜学修プログラム」を導入した。「特別選抜学修プログラム」は、成績優秀かつ品行方正な学生を支援するための制度で、学年進級時の fGPA (functional Grade Point Average) が 2.75 以上の学生に対して、e-Learning 講義を利用することで講義への出席を免除し、その時間を基礎研究や臨床研究に充当したり、短期海外留学や研究体験などの自己研鑽に活用させることを目的とする制度である。	
今後の計画	
「特別選抜学修プログラム」導入による研究活動の支援の開始後は、ステップ2カリキュラム改編等を通して、すべての学生が基礎研究や臨床研究、短期海外留学や研究体験の時間が持てるように準備を進めていく予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

領域 7

改善した項目：39

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
IR センターを中心として教学に関わるデータを系統的に収集し分析すべきである。	
改善状況	
教育プログラムのモニタリングと評価を的確に実施するために必要なデータ分析体制の強化を目的として、2024 年度より、QlikTech が開発した BI ツール「Qlik sense」を導入しデータの分析・視覚化に活用するなど、IR センターの機能整備および体制の充実を段階的に進めている。	
今後の計画	
教育関連データの収集・蓄積・分析を一元的に担えるよう、専任スタッフの配置や分析支援ツールの導入を含む基盤整備を行うとともに、医学部教育プログラム評価委員会との連携体制もより強化する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：40

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
医学部教育プログラム評価委員会は、学修成果とフィードバックに関するデータを用いて確実に教育プログラム評価を実施すべきである。	
改善状況	
開学以降、本学では IR データに基づき学修成果として内部実施の試験と外部試験である CBT 試験、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCE 国家試験などの相関を検討することなどで医学部教育プログラム評価を実施して PDCA サイクルを回す体制を構築してきている。学生からのフィードバックについては、各種授業後のアンケート及び卒業前の6年次の学生から教育プログラムについてのアンケートを実施しており、今後の Step 2 カリキュラム改編の参考としている。今後さらに医学部教育プログラム評価委員会を中心に、医学教育プログラム全体の PDCA サイクルを組織的に回すための評価体制の整備を進めている。	
今後の計画	
評価体制をさらに実効性のあるものにするため、評価サイクルの運用を定期スケジュール化し、評価指標の明確化と共有を進めていくとともに、Step 1 カリキュラム導入に伴う教育内容の妥当性についても検証する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：41

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラム評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。	
改善状況	
「医学部教育プログラム評価委員会」において各学年・各科目の教育活動や学修成果を定期的に点検・評価した結果を、医学部カリキュラム委員会と共有し、具体的な科目内容の見直しや指導法の改善に反映する体制を整備した。これにより、評価とカリキュラム改善の連動が着実に進められている。	
今後の計画	
2023 年度に新カリキュラム「Step 1」が既に導入され、2026 年度を目標にさらに本格的な改変「Step 2」の導入を目指している。今後、教育プログラムの評価結果をより確実にカリキュラム改善へと結びつける体制の強化を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-3 2023・2024 年度医学教育プログラム評価委員会議事録 資料 26-1 カリキュラム委員会 WG カリキュラム改編議事録	

改善した項目：42

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラム評価を行う組織はカリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。	
改善状況	
医学部教育プログラム評価委員会はカリキュラムの企画・実施を担う医学部カリキュラム委員会とは異なる組織体制としており、教育プログラムの妥当性と効果を客観的に評価し、評価の透明性・中立性を担保するため、医学部の教育現場に直接関与しない教職員や外部有識者も委員として参画している。	
今後の計画	
今後は、教育プログラム評価の独立性と実効性を一層高めるため、評価プロセスを学内外により明確に可視化する体制を構築する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-2 2023・2024 年度医学部カリキュラム委員会議事録 資料 11-3 2023・2024 年度医学教育プログラム評価委員会議事録	

改善した項目：43

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	

長期間で獲得される学修成果、社会的責任について、教育プログラムを定期的・包括的に評価することが望まれる。
改善状況
2023 年 3 月に本学医学部の第 1 期生が卒業したことを受け、教育プログラムが長期的に目指す学修成果および社会的責任を果たしているかを確認するため、卒業生の進路、初期研修先での評価など、複数の指標を用いたモニタリングを開始した。
今後の計画
卒業生に対し、継続的なデータ収集を行う体制を整備する。これにより、教育プログラムが医師としての資質・能力に持続的に影響を及ぼしているかを長期的に検証する。
改善状況を示す根拠資料
資料 28-1 1 期生 卒業生 IUHW カリキュラムに関するアンケート調査 2024 資料 28-2 1 期生 指導医 IUHW カリキュラムに関するアンケート調査 2024

改善した項目：44

7. 教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラム評価を確実に行うために、教員と学生からのフィードバックを系統的に収集し分析、対応すべきである。	
改善状況	
学生に対しては、各科目終了時に実施する授業評価アンケートを通じて、指導方法や教育内容に対する意見を収集している。また卒業前に受講した医学部教育プログラムについてアンケート調査を実施している。現在、1-3 期生まで実施済みである。また、教員からも、FD や医学部教育プログラム評価委員会などを通じて、教育体制やカリキュラムに関する意見・要望を収集している。その結果は医学教育統括センターで集計・分析を行い、随時、対応を行っている。	
今後の計画	
学生および教員からのフィードバックをより質の高い教育改善につなげるため、アンケート結果の分析にテキストマイニング等の手法を導入し、自由記述意見も体系的に活用できる体制を構築する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-3 2023・2024 年度医学教育プログラム評価委員会議事録	

改善した項目：45

7. 教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生と教員からのフィードバックの結果を教育プログラム開発に役立てることが望まれる。	
改善状況	
学生や教員から収集したフィードバックの結果は医学教育統括センターにて集計・分析され、必要に応じて教育内容の改善や担当教員への助言が行われている。さらに、分析結果	

は必要に応じて医学部教育プログラム評価委員会、医学部カリキュラム委員会にも報告され、教育プログラムの見直しに反映されている。
今後の計画
フィードバックからの改善提案が実際にどのように教育プログラムに反映されたかをトラッキングする仕組みを整備し、教育の質保証サイクルを強化する予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料 72-1 2023・2024 年度医学教育統括センター運営会議 開催記録

改善した項目：46

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関連して、学生の実績を分析すべきである。	
改善状況	
IR センターでは、建学の精神およびディプロマ・ポリシーに基づく学修成果を多面的に把握するため、学生の学業成績、CBT・OSCE 等の成果指標、卒業試験および国家試験成績を継続的に分析している。これらの分析結果は医学部運営会議や専任教員代表者会議等で報告され、教育内容や指導体制の改善に役立てられている	
今後の計画	
教育プログラムごとのリソース(教員配置、教育時間、設備等)など学修環境・資源提供状況と学修成果との関係性についても分析を進め、教育内容の再検証ならびに継続的なカリキュラム改善へとつなげる予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 73-1 2024 年度第 13 回医学部運営会議資料	

改善した項目：47

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
卒業生の実績に関する情報を収集して分析する仕組みを構築することが望まれる。※なお、第一期生は 2023 年3月に卒業しており、今後卒業生の実績を分析することが期待される。	
改善状況	
2023 年 3 月に本学医学部の第 1 期生が卒業したことを受け、卒業生の実績に関する情報収集と分析の体制整備を開始した。卒業時アンケートの実施に加え、臨床研修病院との連携により、初期研修における評価情報の収集を進めている。	
今後の計画	
卒業生を継続的にフォローアップし、医師としての成長や教育成果の長期的な影響を分析する仕組みを整備する。また、教育プログラムの有効性検証の基礎資料として活用するため、卒業生の進路状況(臨床研修マッチング結果、研修先の診療科傾向等)についても、IR	

センターと連携して集計・分析を行う予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料 28-1 1 期生 卒業生 IUHW カリキュラムに関するアンケート調査 2024 資料 28-2 1 期生 指導医 IUHW カリキュラムに関するアンケート調査 2024 資料 73-2 卒業前アンケート調査結果 資料 73-3 USMLE 合格結果

改善した項目：48

7. 教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定:適合	
改善のための示唆	
卒業生の実績に対するフィードバックは今後の課題である。	
改善状況	
第 1 期生の卒業を契機として、卒業生の臨床現場における実績を把握し、それを教育プログラムの改善に反映するための取り組みを開始した。また、卒業生の初期研修における実績や課題については、医学部教育プログラム評価委員会において報告・検討を行っており、教育改善へのフィードバックの仕組みづくりが進行中である。また、卒業生の初期研修における実績や課題については医学部教育プログラム評価委員会において検討を行うため、教育改善へのフィードバックの仕組みづくりを進めている。	
今後の計画	
卒業生の実績に対するフィードバック体制をより充実させ、医学部カリキュラム委員会や医学部教育プログラム評価委員会において分析・共有し、教育内容の質的向上につなげる体制を強化していく予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11-3 2023・2024 年度医学教育プログラム評価委員会議事録	

領域 8

改善した項目：49

8. 統轄および管理運営	8.1 統轄
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
執行部の構成と位置づけを明確に定めるべきである。	
改善状況	
医学部執行部は、医学部長、医学科長、教務委員長、医学教育統括センター長、臨床教育センター長からなる。執行部メンバーと教務課・学生課幹部職員との定例の会議として、調整会議を毎週水曜日の 10 時～11 時に開催している。調整会議で検討された事項は、医学部運営会議で学長、副学長、大学院長、副大学院長に報告、テーマに応じて審議される。また、教授会に相当する専任教員代表者会議において、報告、審議される。	
今後の計画	
上記の位置づけを、医学部調整会議内規に明確に定める予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

改善した項目：50

8. 統轄および管理運営	8.2 教学における執行部
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
執行部の評価をする委員会を適切に組織し、医学部の使命と学修成果に照合して、評価を行うことが望まれる。	
改善状況	
医学部の使命と学修成果に照合した視点での評価は、学長、副学長、大学院長、副大学院長と執行部メンバーとからなる医学部運営会議において定期的になされている。また、年二回開催される全国学部長学科長会議においては、春は前年度の総括と新年度の運営目標、秋は当該年度の運営目標と現状につき報告し、執行部の活動の評価が行われている。	
今後の計画	
執行部の評価を行う委員会としての役割、位置づけを明確にし、医学部運営会議内規にも明示する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	

領域9

改善した項目

9. 継続的改良	
基本的水準 判定:適合	
改善のための助言	
なし	
改善状況	
本学医学部は、2023 年に一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME) による医学教育分野別評価を受審し、世界医学教育連盟(WFME)の国際基準に基づく「医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34」に適合していることが認定された。 現在、評価報告書の各項目の改善のための助言に従って改善を進めており、本年度までの改善状況を本報告で提示している。	
今後の計画	
年度ごとに改善状況を確認し、未達成の改善項目を中心に対処を進める。	
改善状況を示す根拠資料	
資料なし	